

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら久未教室		
○保護者評価実施期間	2025年11月25日		2025年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	70	(回答者数) 51
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性を有する職員が多く在籍しており、それぞれの視点や強みを生かしながらチームで支援にあたっている	保護者からの要望や子ども一人一人の課題について日々確認し、情報を共有しながら療育を実施している。支援内容が一方にならないよう、保護者の思いや現場での気づきを踏まえた支援を心がけている。	個々の気付きや支援内容をより組織的に活かすため、全体共有できる場として会議を定期的に設ける。情報共有の質を高め、支援方針の統一と専門性の向上につなげていく。
2	活動プログラムが充実している	年間を通じて活動プログラムが固定されないように工夫し、季節や子どもたちの興味関心を取り入れながらプログラムを構成している。また、児童が楽しみながら参加できるよう、発達段階や特性を踏まえた療育内容を組み立てている。	個々の利用児童の特性や課題に合ったプログラムを提供できるよう職員間での話し合いや振り返りの機会を増やし、情報共有と支援方針の統一を図っていく。
3	保護者様と日々丁寧な情報共有を行い、継続的な連携を図っている	連絡帳でのやり取りや送迎時の対面での報告に加え、活動写真の共有や定期的な面談などを通して、事業所での様子が具体的に伝わるように心がけている。また、一方的な報告にならないよう、保護者様の思いやご家庭での様子も伺いながら双方向のやり取りを意識している。	日々の情報共有を継続するとともに、記録内容や伝え方の工夫を行うとともに、定期的な面談の実施などにより保護者様のニーズを把握し、支援内容に反映していく体制を継続する。あわせて、保護者様が安心して相談できる関係性を一層高め、継続的かつ双方向の連携の強化に努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	管理者・児発管と現場職員との間でのコミュニケーションが少ない	管理者としての経験やマネジメント力の不足に加え、事務業務や調整業務に時間を要しており、職員一人ひとりと向き合っ対話する時間を十分に確保できていない。その結果、現場の声を丁寧に吸い上げる機会や、日々の気づきを共有する場が不足している。	定期的な面談を実施するとともに、短時間であっても職員一人一人と向き合う機会を確保する。加えて、朝礼・終礼での共有事項の確認を継続し、双方向のやり取りを意識しながら、職員が安心して意見や思いを発信できる環境づくりをチーム全体で進めていく必要があると考えます。
2	長年教室を使用していることによる環境整備の必要がある	一部の床(絨毯マット)の劣化や壁紙の剥離が目立ってきている。日々の清掃は実施しているが、経年劣化による設備面の痛みが生じている。子供たちが清潔で心地よく、安全に過ごせる環境であることが前提であり、環境面の改善が必要であると考えます。	劣化が見られる箇所について優先順位をつけ、計画的な修繕・張り替えを検討していきたいと考えます。また、定期的な環境点検を実施し、小さな痛みの段階で対応できる体制を整えます。今後も日々の清掃を継続するとともに、子供たちにとって安全で安心できる環境づくりに努めます。
3	保護者会等、他の保護者と交流する機会が少ない	交流を希望されている保護者の方はいらっしゃるが、就労されているご家庭が多く、時間や日程の調整が難しい。そのため、交流の場を設定しても参加に限られる可能性があり、継続的な機会の確保ができていない。	30分程度の短時間によるミニ交流会やテーマ別の座談会、行事後の交流時間の設定など、負担の少ない形での参加機会を設ける。合わせて、事前にニーズ調査を実施し、保護者が希望する内容や開催時間を把握した上で、参加しやすい時間帯や方法を検討していきたいと考えます。